

学校施設の有効活用について

令和7年7月 神戸市教育委員会

1. 第3回有識者会議の振り返り
2. 小学校でのICTを活用した施設開放
3. アンケートの結果の報告
4. 有識者会議での意見とりまとめ構成案

第3回有識者会議の振り返り

令和7年3月24日（月）15時～

< 小学校でのICTを活用した施設開放 >

モデル実施
(8校)

検証事項

- ・ 開放運営委員会役員の負担軽減（鍵管理）
- ・ 開放運営委員会の利用日と「まちかぎりモート（予約システム）」への設定

< 持続可能な施設開放の仕組み >

－ 持続可能を高める視点 －

- ▶ 事務的な業務は教育委員会事務局が担う
- ▶ 運営委員会の学校運営に貢献している取組を継承する
- ▶ 利用団体の施設利用を通して地域活動を活性化させる

< 神戸における学校づくり >

学校づくりの指針 ～人がつながり ともに創る みんなの学校～

＼ みんな つながる ／

人々の交流を
誘発する活動

＼ みんなが つくる ／

多様な団体が
連携した場づくり

＼ みんなで つづける ／

利用しやすい
仕組み・環境整備

－ 当日の主な意見 －

小学校でのモデル実施

- ・ 利用者が平等に利用できるようになることが期待できる
- ・ 不具合も検証してほしい
- ・ 備品は鍵付倉庫に片づけるなどの対策が必要

持続可能な仕組み

- ・ 利用料金は必要。キャンセルは機会損失になるため、キャンセル料も検討すべき
- ・ 子ども主体の団体は優先でよい
- ・ 子ども主体の団体の利用料の免除はあり得るが、学校への貢献で免除は違う

今後の方向性

- ・ 誰もが利用しやすいことが大事。情報発信の必要性は非常に強く感じる
- ・ 開放運営委員会と学校運営協議会は人材・役割が重なっているため、機能を学校運営協議会に集約する
- ・ 学校が地域の共有地となるためには、地域に活動の情報が共有されなければならない

小学校でのICTを活用した施設開放

I. 検証したい内容

- ・ 開放運営委員会役員の負担軽減（鍵管理）
- ・ 開放運営委員会の利用日の「まちかぎりモート（予約システム）」への設定

今後検証予定

- ・ 毎月、抽選開始前に利用可能日を確認
- ・ 予約不可の登録は一定の『事務負担』発生
（利用できない日が多いほど事務負担も多い）

II. 予約状況（7月）

- ・ 学校行事日 > 開放運営委員会利用日 > **利用可能日**

小学校（7校）の予約状況

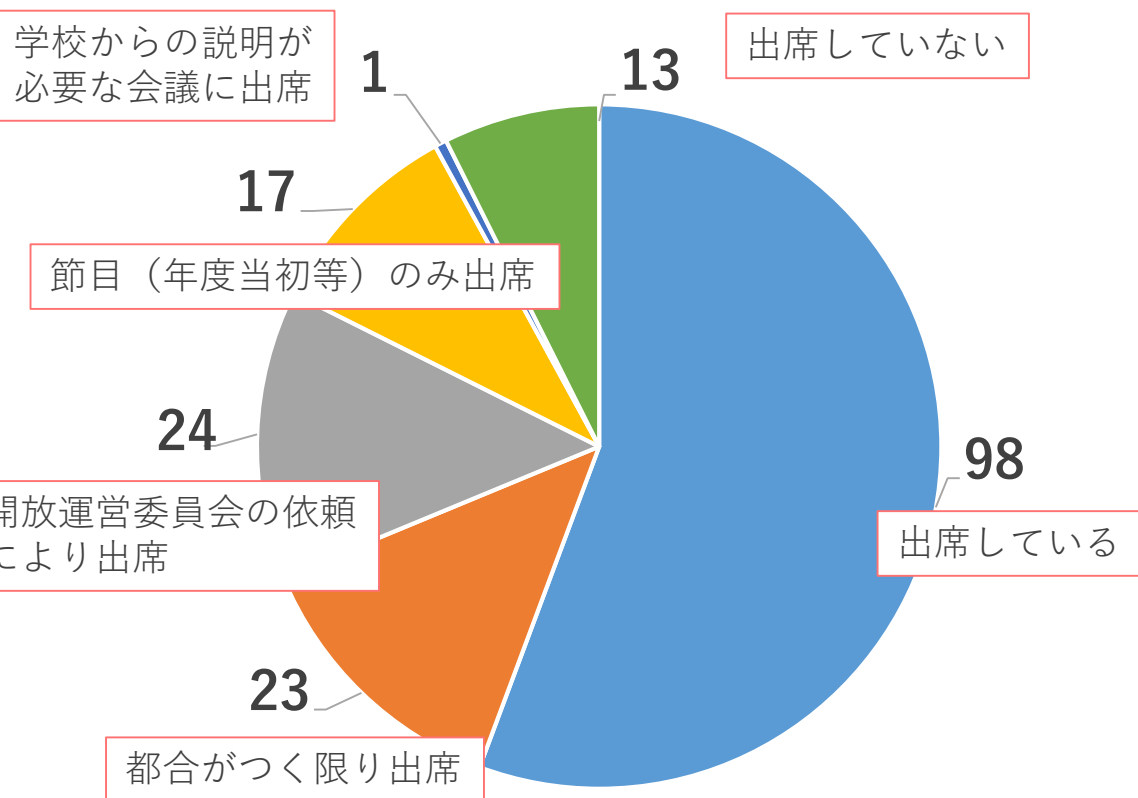
予約日数89日／予約可能日数108日＝82%

学校ごとの予約率

min39% < max100%

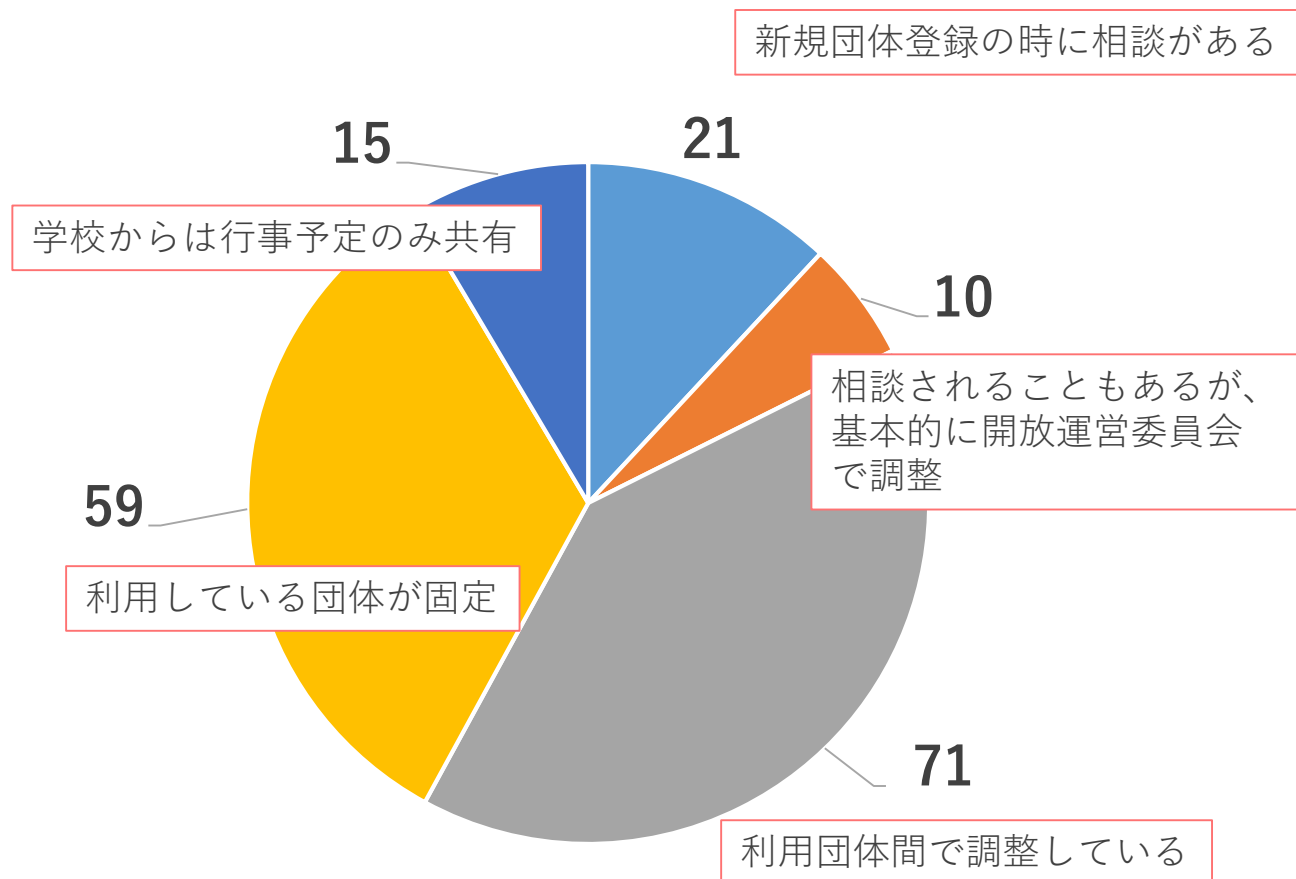
学校アンケートの結果（開放運営委員会）

学校の開放運営委員会への出席状況



多くの学校が会議に参加

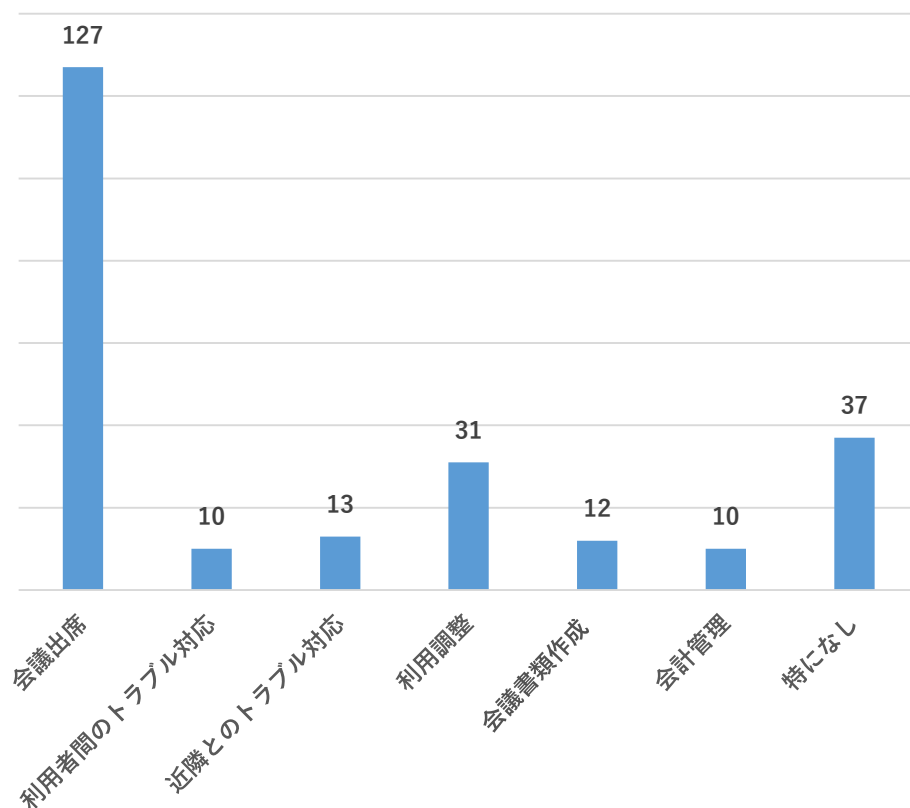
学校の利用調整の関与



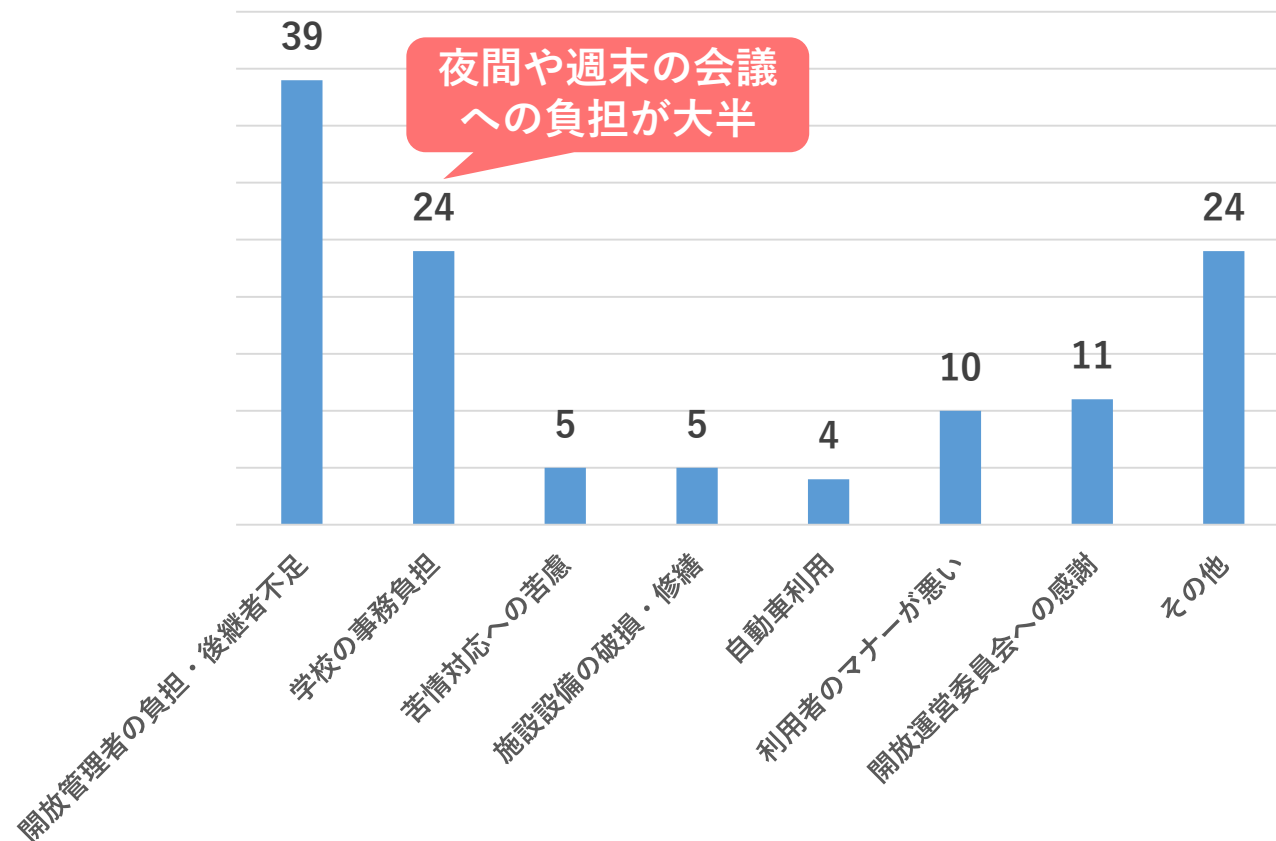
あまり利用調整に関与していない

学校アンケートの結果（開放運営委員会）

学校が負担に感じる項目



その他意見



会議の負担が大きい（時間帯に課題）

ICTを活用した中学校体育館の利用者アンケートの結果

I.実施時期

令和7年5月26日～6月1日

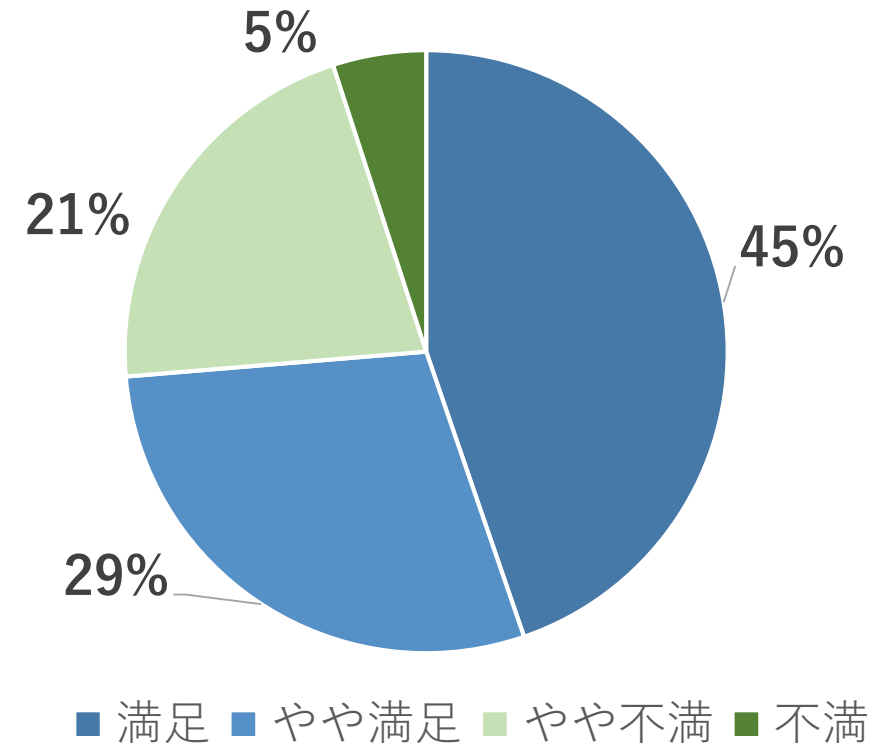
II.対象（回答数）

ICT登録団体（回答数：380団体）

III.主な意見

- ・ 家から近い体育館が利用できる
- ・ 無料で利用できるのはありがたい
- ・ スポーツを通じて人とのつながりを広げることができる
- ・ 夜間以外も利用したい
- ・ 抽選申込の体育館を校区ではなく市全体に拡大してほしい
- ・ 抽選等の手続きは便利。半日単位で使用したい
- ・ 曜日ごと利用傾向がわかれば抽選申込しやすい
- ・ 先着申込スタート時にアクセスが集中し接続できない
- ・ 駐車できる学校が少ない

IV.満足度



利用者の74%が満足

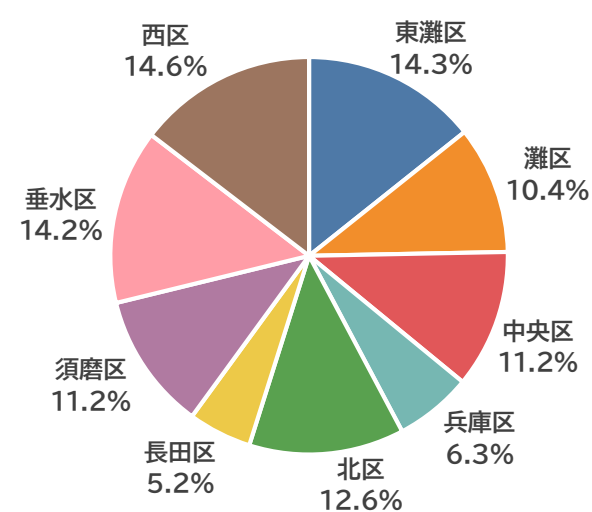
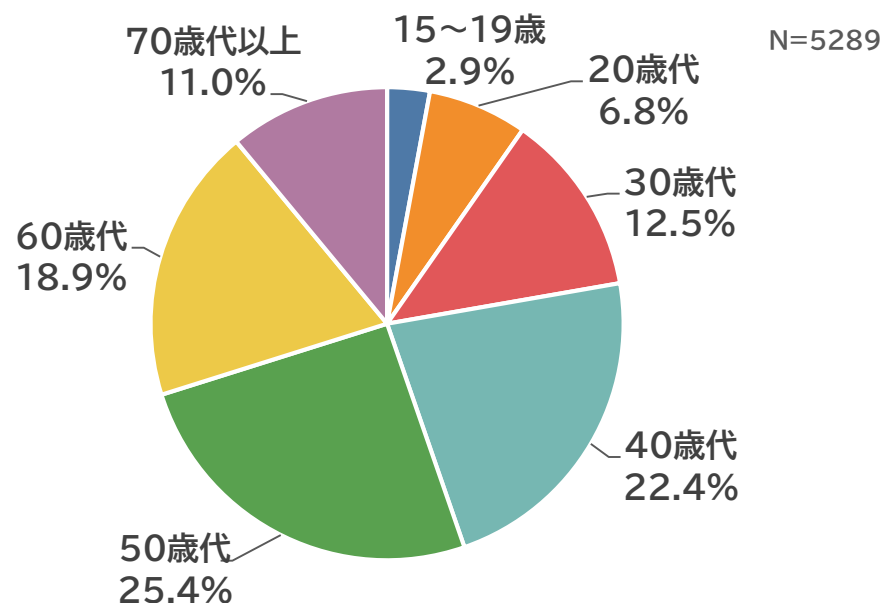
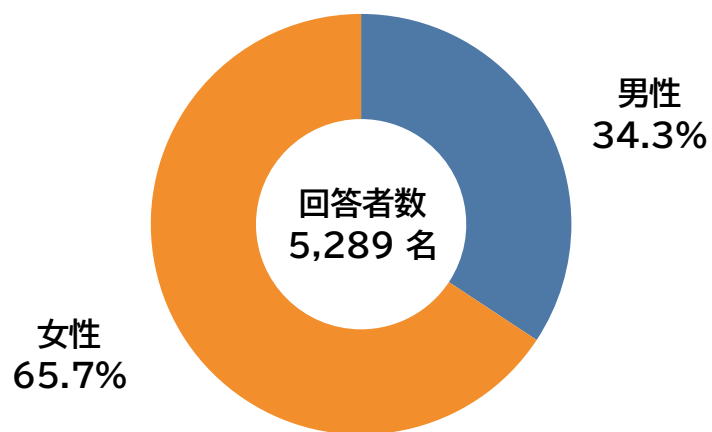
神戸市ネットモニターアンケートの結果

I.実施時期

令和7年6月4日～6月17日

II.対象（回答数）

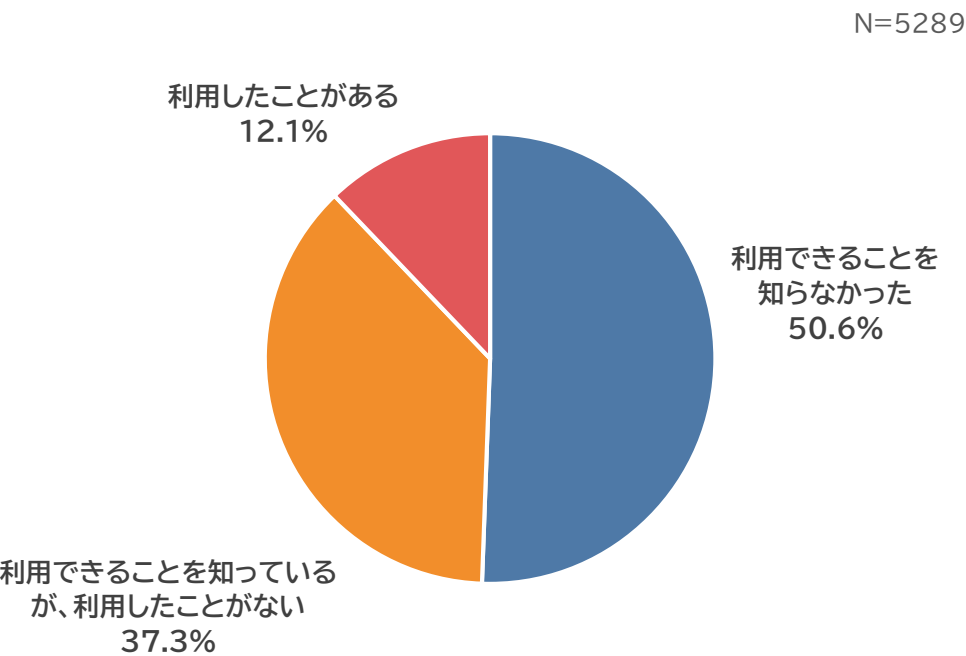
ネットモニター（回答数：5,289名）



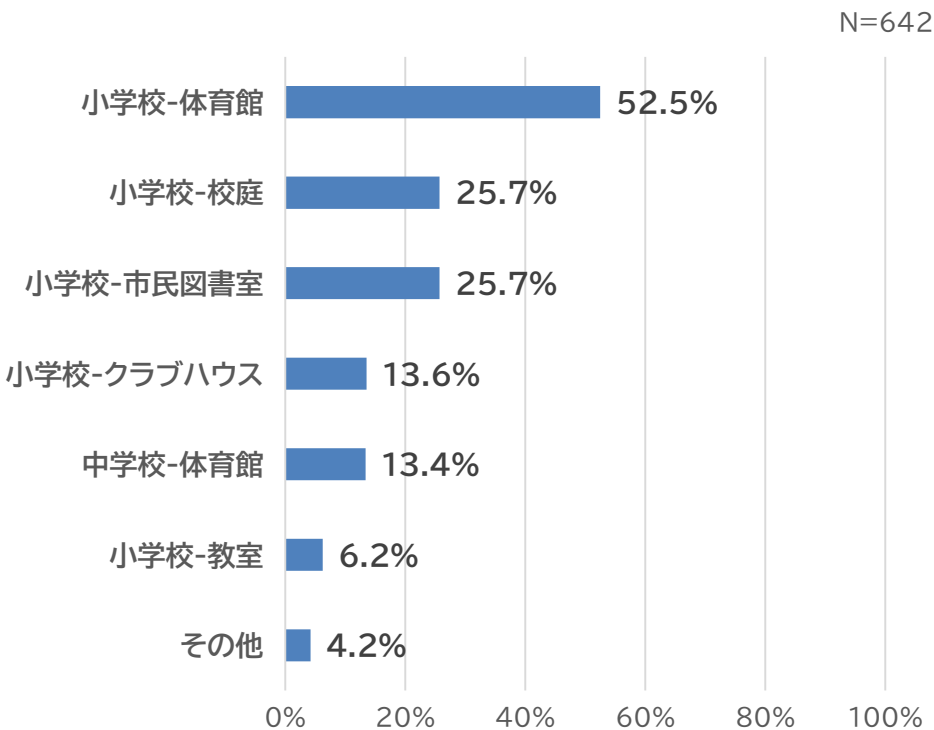
N=5289

神戸市ネットモニターアンケートの結果

学校開放事業の認知度・利用状況



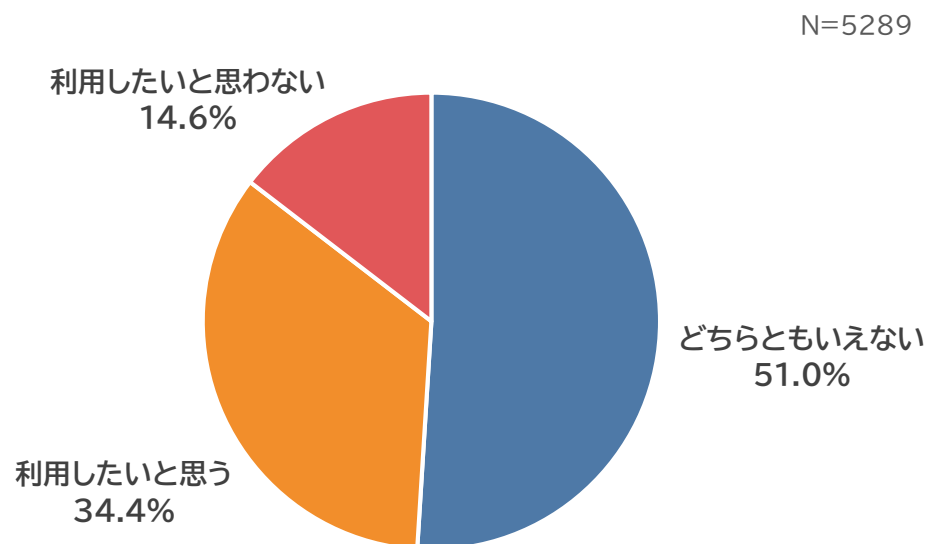
『利用したことがある方が利用した施設』



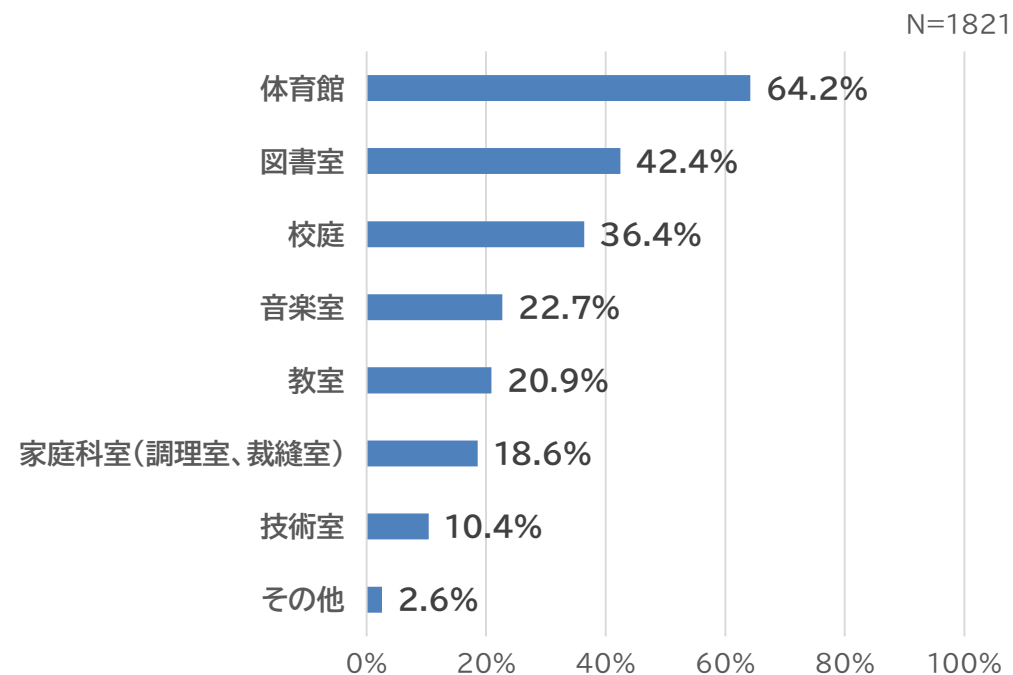
5 割が学校を利用できることを知らない

神戸市ネットモニターアンケートの結果

学校施設利用の意向



『利用したいと思う方の利用したい施設』

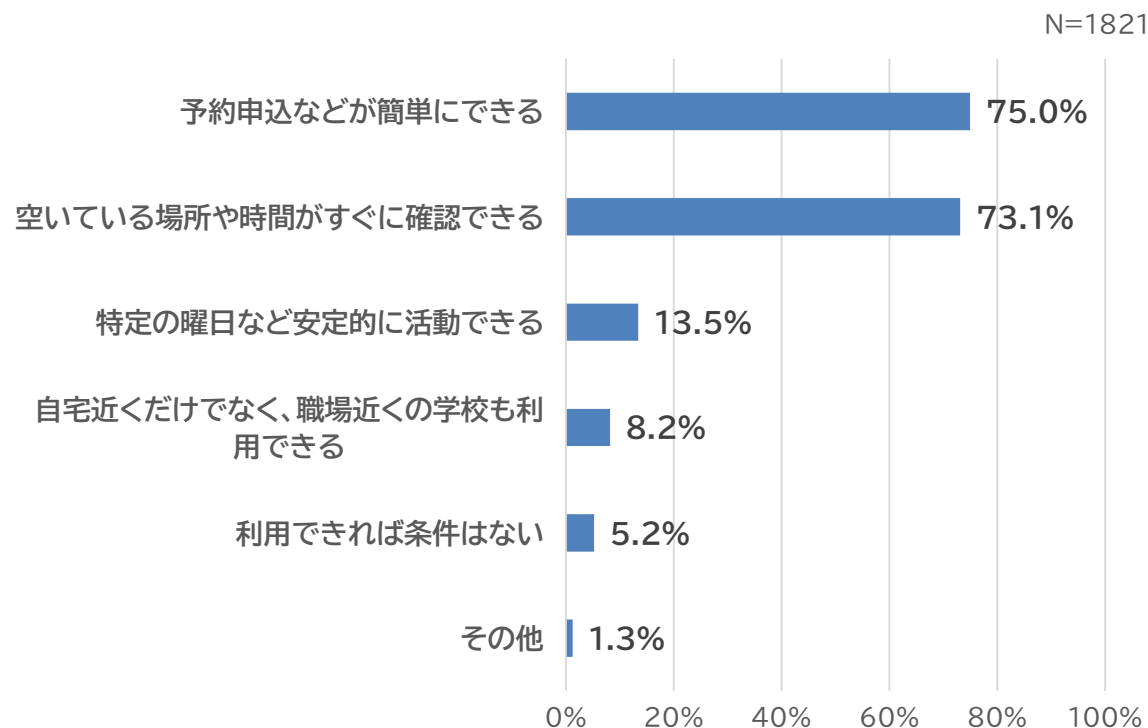


開放していない音楽室や家庭科室の利用希望もある

神戸市ネットモニターアンケートの結果

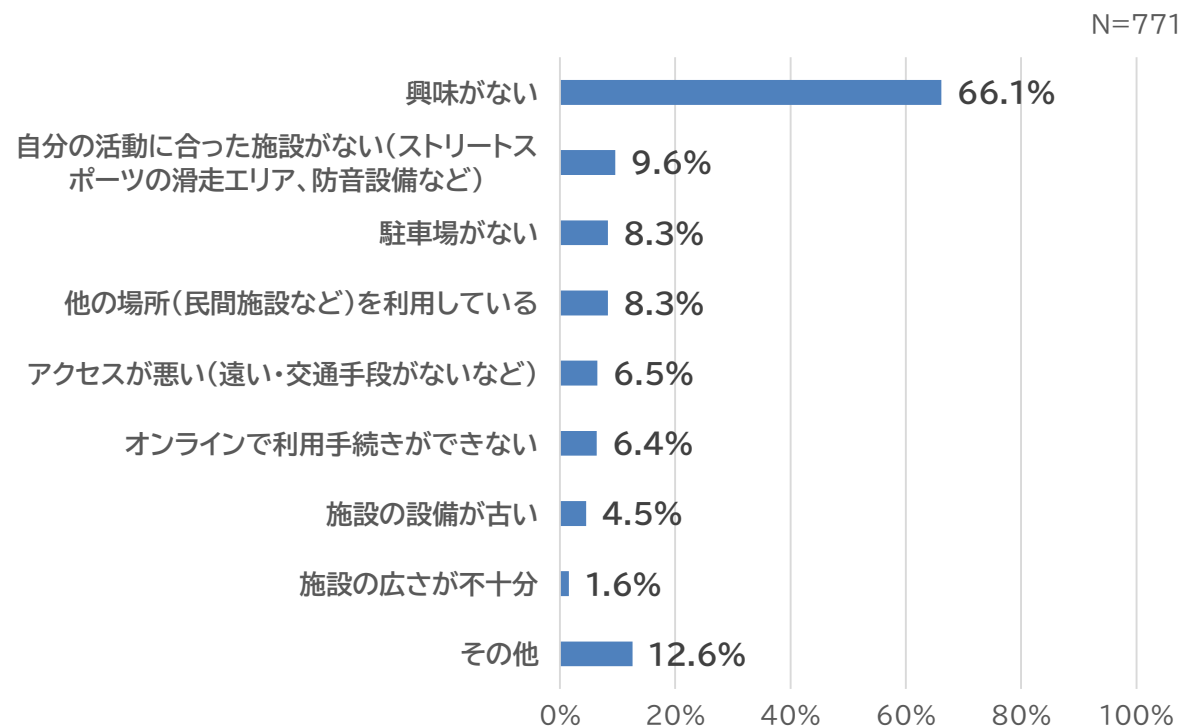
学校施設利用にあたって期待する条件

『利用にあたって重視する条件』



わかりやすい手続きが重要

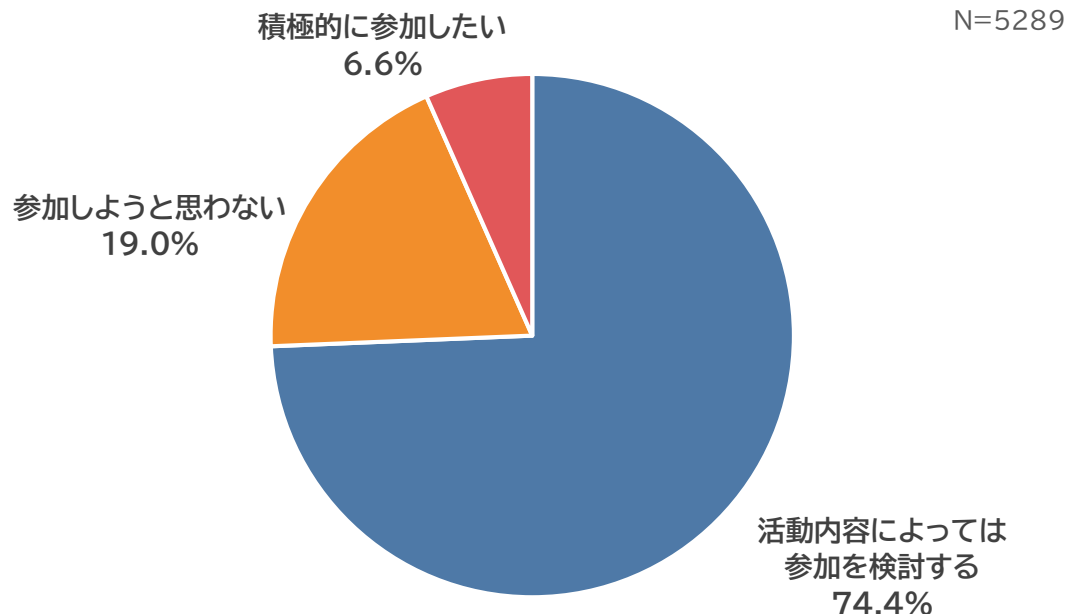
『利用したくない理由』



その他意見として学校教育への支障、学校の負担、セキュリティ確保などを危惧する意見多数

神戸市ネットモニターアンケートの結果

学校を開放して実施される 文化スポーツ活動への参加の意向



その他意見

- ・ 学校運営に支障のない範囲で積極的に利用できる仕組みがある
- ・ 子供が卒業してから学校に行く機会がない。自分が参加できる学校での行事・イベントがあればいい
- ・ 子どもが習いたいというスポーツがあった
情報をまとめて管理してるサイトがあれば便利
- ・ 特定の団体が独占してほしくない
- ・ 学校をお借りしているので、ボランティアでお返しできたらと学校の行事には参加している
- ・ 学校開放が充実している学校とそうでない学校との格差がある
- ・ 地域の学校とは接点が無く行事に参加するには部外者すぎてハードルが高い
- ・ 学校は非常時には避難所になるなど地域の中心になる施設
- ・ 神戸市は運動施設や福祉センターなど文化施設が充実している利用者側の負担（後片付けなど）や設備のレベルなどを勘案すれば学校は利用しやすいとはいえない
- ・ 安全面は配慮が必要だが、閉ざしていても発展はない
- ・ 子供の安全性から誰でも入れるようにはしないほうがいい
- ・ 学校施設なので、管理が学校の負担にならない工夫が必要

アンケートの結果（まとめ）

取り組むべき視点

- ▷ 活動内容の発信強化
- ▷ 学校の多様な機能（校庭・体育館以外）の活用
- ▷ 利用手続きの簡略化

留意事項

- ▷ 学校教育活動への支障回避及び
子供の安全の確保
- ▷ 安定した利用機会の提供
- ▷ 学校の負担軽減

期待される効果

- ・ 利用できる施設の増加
- ・ 利用ニーズに対応した施設活用
- ・ 地域コミュニティの活性化

（参考）神戸市事例（向洋小学校・東須磨小学校）

向洋小学校

開放運営委員会

のびのび

スポーツクラブ

市民図書

スポーツクラブ委員会を組織化

- ▶ 向洋小保護者で構成
（任期2年、1年ごとに半数が入れ替わる）

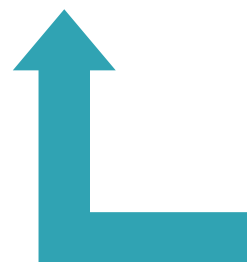
（主な活動内容）

- ・年間4回、委員会（会議）を開催
利用者団体を集めて利用日申し込みの受付・重複の場合は抽選を行う
- ・新規利用申し込みの窓口を担う
- ・学校施設の利用を地域に広報する
- ・地域貢献活動の実施

東須磨小学校

コミュニティ・スクールとして連携

学校運営協議会



－部会－

- ・学校施設開放部会
- ・リサイクル部会
- ・こども会 など

- ▶ それぞれの部会が独立して活動
- ▶ 定期的に報告会を実施
（地域連携活動として報告）

(参考) 川崎市事例〔追加〕

I. 利用しやすい仕組み・環境整備

・利用調整の配慮順

配慮順	対象となる活動	具体例
1	近隣の児童生徒を対象とした活動	近隣の児童が主な利用者となる少年野球や子ども会、総合型地域スポーツクラブなど
2	近隣の児童生徒以外を対象とした活動	学校のPTA、学区内の町内会・自治会が主な利用者となるバレーボールや会合など
3	近隣ではない児童生徒を対象とした活動	中学校区域外の児童が主な利用者となるスポーツ教室や合唱、自習スペースの提供など
4	近隣ではない児童生徒以外を対象とした活動	居住地が学区外の大人が主な利用者となるソフトボールやフットサル、演劇など

・スマートキーボックス



- ・学校施設開放運営委員会
基本的には利用者に構成
(地域住民の参画可)

<役割>

教委、学校や利用団体との連絡調整

<連絡担当2名以上>

全体会議、利用調整会議の開催調整等

※学校と利用者の顔の見える関係維持

※学校運営協議会について未設置校あり

II. 人々の交流の誘発

<予約システム>

利用団体登録：利用校の予約状況閲覧可能
(団体名のみ)

III. 学校の負担軽減

- ・全体会議出席のみ（学校使用ルール、不可日等）
- ・予約管理、利用団体等からの問い合わせ、
鍵の受け渡しなどの業務減

(参考) 部活動の地域移行

6月24日～7月31日まで

第1次募集の結果 **526クラブ** を登録

スポーツ : 369クラブ
文化・芸術・その他 : 157クラブ



第2次募集の開始

第1次募集で登録済みの種目は
同一中学校では募集しない

活動が足りていない地域や種目がある一方、学校によっては
グラウンドや体育館などの活動場所が埋まりつつある状況

コベカツクラブの活動時間

- ・ 中学校施設を使用する場合は、
平日は**16時から20時30分**のうち、2時間程度まで
休業日は**18時まで**の日中のうち、3時間程度まで
を基本とする

有識者会議での意見とりまとめ構成案

I. 学校施設開放事業の現状と課題

- ・ 学校施設開放運営委員会の取組及び解決すべき課題
（地域の負担軽減・公平性の担保・財政負担の軽減）
- ・ ICTを活用した中学校体育館の夜間開放の取組及び解決すべき課題
（セキュリティ・利用者のマナー・安定的運用）

II. 今後の取組の方向性

- ・ 学校づくりの指針の実現に向けた3つの視点
- ・ 持続可能な仕組みの構築
（事務負担の省力化・財政負担の軽減・公平公正な利用調整・機器トラブルへの対応）
- ・ 地域コミュニティづくり
（文化・スポーツ活動などの活性化（情報発信）・学校運営協議会との連携）

有識者会議での意見とりまとめ構成案

I. 学校施設開放事業の現状と課題

i. 学校施設開放運営委員会

- ・ 地域住民や利用団体の代表者等で構成される学校施設開放運営委員会が学校施設の施設管理や団体間の利用調整等を担う
- ・ 小学校を中心に192の施設で開放事業を実施

－解決すべき課題－

①地域負担の軽減

②公平性の担保

③財政負担の軽減

有識者会議での主な意見

- ・ 日程調整、鍵の管理などすべてを開放運営委員会の委員が行うことは**負担が非常に大きい**。
- ・ 後継者が見つからず、高齢になっても引継ぎできない人もいる
- ・ 地域の力関係が反映やすい。**利用者が固定化している状況**が存在する。
- ・ **施設利用の対価を払うのは当然**。施設の修繕等を行うために必要な費用。ただ、減免のルールも必要。
- ・ **学校開放の情報がわかりにくい**。より利用していただけるようアクセスしやすい情報の提供が必要。

有識者会議での意見とりまとめ構成案

I. 学校施設開放事業の現状と課題

ii. ICTを活用した中学校体育館の夜間開放 ※小学校の一部でモデル実施

- ・部活動等で体育館を使用しない時間帯（夜間）を、市内在住・在勤の方に無料で開放
- ・中学校（70校）、小学校（8校）で実施 登録団体数：約1,218団体（R7.6時点）

－解決すべき課題－

①セキュリティ

②利用者のマナー

③安定的運用

有識者会議での主な意見

- ・開放運営委員会では会議参加の負担もあり、ICT導入により委員の負担が減った。
- ・ICTを活用した取組は、**利用者が平等に施設を使える**ようになる大きなメリットある。
- ・予約画面で活動種目が分かれば、当日参加など地域交流が生まれるのではないか。
- ・利用者の不適正な利用については、過渡期とも考えられる。**注意喚起**を継続しながら、事業を拡大していく。
- ・ICTを導入する段階で、**老朽化しているドアや通用門の南京錠を見直し**、市民が利用できる形にしていくべき。
- ・**学校側の負担を減らす**という観点も必要。お金で解決できることは解決してしまう方が良い。

今後の学校開放に向けた論点整理

i .利用しやすい仕組み・環境整備

- ・誰もが利用しやすい、
持続可能な学校開放事業の再構築
- ・子供の安全のためにセキュリティ確保
- ・適切な施設の維持管理
- ・受益者負担のあり方

利用しやすい仕組み

- ①利便性の向上及び事務負担の省力化（**システム化**）
- ②利用可能施設の拡大
- ③**利用ルールを遵守**できる仕組みづくり
優先利用の明確化（利用調整の役割）
- ④**安定的な運用**（機器トラブル等リスクへの対応）
- ⑤適正な**施設使用料**のあり方・徴収の仕組み

ii .人々の交流の誘発・多様な団体が連携した場づくり

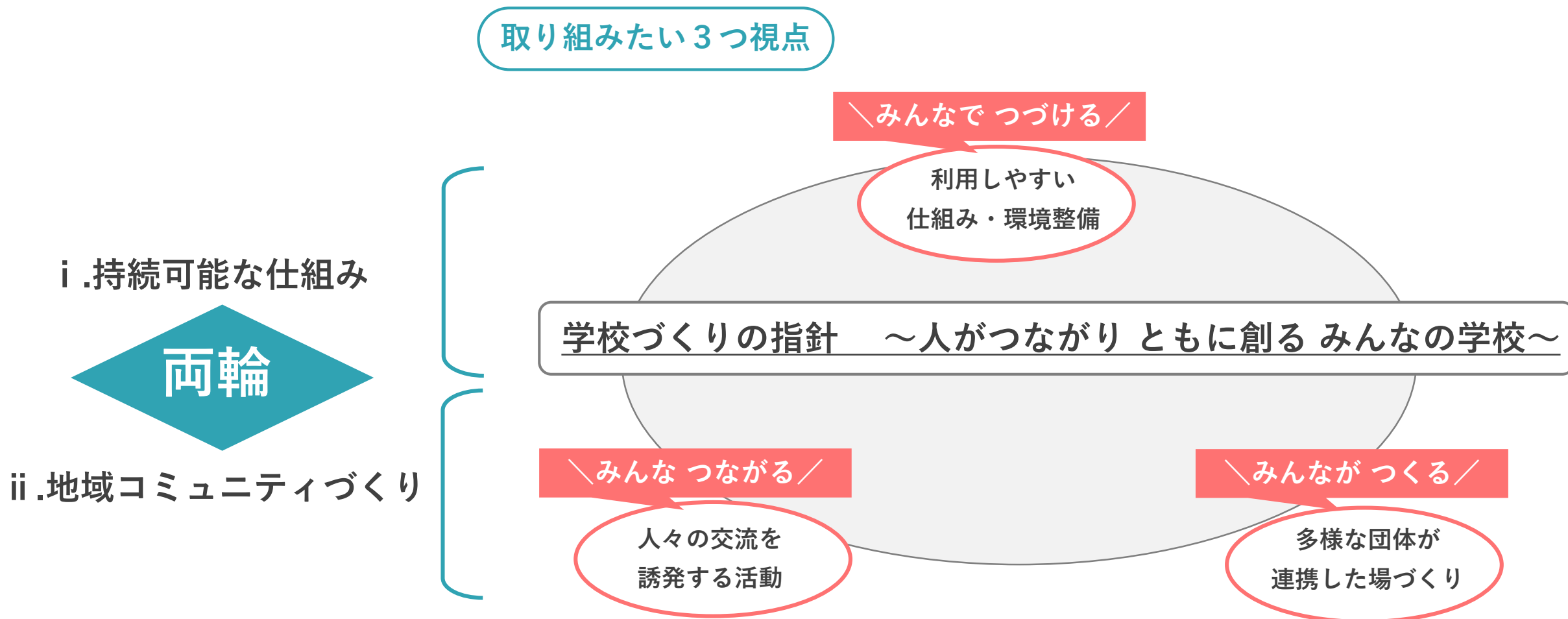
- ・スポーツ、文化活動などの促進
- ・学校を拠点とした活動の効果的な情報発信
- ・学校運営支援につながる地域コミュニティの形成

地域コミュニティづくり

- ①**学校運営協議会**との連携
- ②学校を核とした地域コミュニティの活性化
（学校HPとの連携や予約管理システムでの発信）
⇒学校の運営支援、子供たちの学びと成長を支える

有識者会議での意見とりまとめ構成案

II. 今後の取組の方向性



有識者会議での意見とりまとめ構成案

II. 今後の取組の方向性

i. 持続可能な仕組みの構築

- ・ 利便性の向上及び事務負担の省力化（**システム化**）
- ・ 利用可能施設の拡大
- ・ 適正な**施設使用料のあり方**・徴収の仕組み
- ・ **利用ルールを遵守**できる仕組みづくり、**優先利用**の明確化（利用調整の役割）
- ・ **安定的な運用**（機器トラブル等リスクへの対応）

有識者会議での主な意見

- ・ 子供が活動する団体は使用料を免除すればよいが、受益者負担は必須。
- ・ **使用料無料が不適切な使用**に関係している。**キャンセル料などのペナルティ**も必要。
- ・ 学校施設開放運営委員会では、**顔をあわせる場**があったので、**ルールの徹底**ができていた。
- ・ 子供には活動時間や活動可能な範囲があるので、**学校は子供の活動中心であることが望ましい**。
- ・ 学校の利用にあたっては、地域交流の場としての学校ではあるが、子供の活動が優先されることが望ましい。
- ・ 子供が優先は理解できるが、地域が学校を使う意味もある。**地域活動も優先できる仕組み**があればよい。
- ・ 子供の活動は指導者もボランティアで参加していることも多く、**使用料免除の仕組み**が必要。
- ・ 使用料の支払いは、**キャッシュレス化により利便性の向上**を図ってほしい。
- ・ 子供たちが快適に活動できる設備を整える必要がある。**使用料に設備面の仕様向上のための金額を上乗せすることも検討**してほしい。

有識者会議での意見とりまとめ構成案

II. 今後の取組の方向性

ii. 地域コミュニティづくり

- ・ 学校運営協議会との連携
- ・ 学校を核とした地域コミュニティの活性化（情報発信）

⇒ 学校の運営支援、子供たちの学びと成長を支える

有識者会議での主な意見

- ・ 誰もが利用しやすいことが大事。知っている人が施設を利用しているクローズドな状況となっており、情報発信の必要性を感じる。
- ・ 市民の意識に学校の使い方が定着していくのに時間がかかる。
- ・ 学校運営協議会が設置され、人材・役割が重なっている部分もあり、開放運営委員会の機能を学校運営協議会に集約し、利用調整機能を学校運営協議会が担うのであれば、管理者と利用団体が分離できる。
- ・ 地域団体だけではなく、利用団体もコミュニティ・スクールの連携・協力活動を担うことは、より学校や子供たちを支える活動が増えるとともに、地域活性化が期待できる。
- ・ 学校運営協議会の中でやっていることと、学校開放の地域貢献事業は共通部分が多い。
- ・ 学校づくりの指針を示すツールとして学校運営協議会が有効。
- ・ 学校運営協議会は意見を言える場であり、非常に良いが、学校運営協議会自体が、周りに知られていない。
- ・ 学校教育活動が第一。その上で、学校施設を有効活用できるかという議論。
- ・ 大人の学び場として、子供たちに社会との接点をつくってあげることができるなど教育自体にも相乗効果が期待できる。
- ・ 教職員も、学校施設は共有空間なのだ意識に変えていかないといけない。

今後のスケジュール

令和 6 年 3 月	： 第 1 回会議	現状と課題
令和 6 年 7 月	： 第 2 回会議	地域団体の運営状況と夜間開放の課題
令和 7 年 3 月	： 第 3 回会議	現状及び課題、他都市事例共有 学校施設の有効活用に関する方向性等の意見交換
○令和 7 年 7 月	： 第 4 回会議	今後の学校開放に向けた論点整理 意見のまとめの構成（案）
令和 7 年秋～冬	： 第 5 回会議	意見のまとめ（案）

有識者会議としての意見としてとりまとめていただき、
それを踏まえた上で、教育委員会で「学校施設の有効活用に向けた方針」を策定する。